

役に立つかもしれないシリーズ 8「海外旅行編」

種瀬徹也（名古屋名駅RC）

今回は、「海外旅行添乗業務における体験エピソード」をご紹介します。

<エピソード1>中国あるある

- ①中国籍の航空機を優先する為、外国籍の航空機の離陸許可を出さず出発時間を平気で遅らせます。
（中国の管制塔は未だ不透明です。）
- ②予約をしたレストランに行くとも何も準備されていない。
（ガイドは怒っていました。お客様は笑っていました。）
- ③四川料理が辛いを乗り越えて痛くて食べられない。
（夜食にカップラーメンを皆様に配りました。）
- ④アジア名物 1,000 円族出現（プロのスリ集団がお客様の財布を狙います。）
（1,000 円相当のコピー商品を売ると見せかけてお客様の財布を狙っています。実際にお客様が財布を取られてしまい追いかけて捕まえましたが、既に財布は仲間に渡っていました。）
- ⑤お客様が猫目石を購入しましたが、帰国して開けてみるとただのガラス玉が入っていました。
※猫目石は宝石の一種です。
（旅行会社推奨のお店で購入した為、帰国後返金していただきました。）
- ⑥ホテルでタクシーを並んで待っていても乗れない。
（中国人は並ぶという習慣がなく横入りは当たり前です。強引に乗りましょう。）
- ⑦1 週間腹痛に悩まされる。
（お皿に付いた水滴にやられました。海外の生水には気をつけましょう。氷も危険です。）

と記憶に残る出来事が起こりうるのが中国です。

中国は見た目にもこだわります。上海のリニアモーターカー・ディズニーランド・豪華ホテルは一見日本より発展している様に見えますが、リニアは上海空港から上海市内の途中までしか繋がっておらず見栄だけ、ディズニーランドからは山が見えたりニセモノのキャラクターも登場、ホテルの蛇口からは茶色の水が出たり取っ手が取れてしまう事もあります。

中国へのご旅行の際は、余裕をもったスケジュールで、スリに気を付けながら、広い気持ちで旅行に行かれる事をおすすめいたします。（時には強引に）

<エピソード2>パスポート紛失事件

グアムの添乗での出来事です。深夜便で入国してホテルにチェックイン。さて寝ようと思すとお客様から1本の電話が。（深夜2時）「添乗員さんパスポートがありません。」と・・・。

翌日、パスポートを無くされたお客様と写真屋で証明写真を撮り、日本大使館へ臨時パスポートの申請へ。その翌日大使館で臨時パスポートを受け取りグアムの3日間が終わりました。パスポート無くされたお客様はグアムに来てグアム空港の見学と証明写真撮影体験・日本大使館の見学をされ旅は終了となりました。最後に、楽しみが落胆に変わらないためにも「パスポートは命の次の大事です。肌身離さずお持ちください。」

マメ知識：パスポート紛失した場合の手順

紛失⇒証明写真購入⇒日本大使館へ連絡・申請⇒翌日もしくは翌々日臨時パスポート交付の手順です。

<エピソード3>国が変わったルール

旅行前に滞在先の文化やルールを知っておくことはとても大切です。

その典型的な例として、最近旅行先として人気が出てきたブルネイという国を少しご紹介します。石油や天然ガスなど多くの資源で潤う黄金の国「ブルネイ王国」は、世界的にリッチなアジアの小国として知られ、国民の生活レベルも高い国。7つ星ホテルがあるのもビックリ！国王が所有している超豪華なもので一生に一度は泊まってみたいホテルです。とても魅力的な国ですが、お酒・タバコ好きの方には不向きな国です。お酒は禁止、タバコの税金もかなり高額。7つ星のホテルにも素敵なプールバーがありますが、すべてのドリンクメニューはソフトドリンクでした。お酒・タバコに興味のない方は一度7つ星ホテル「ザ・エンパイヤホテル」のあるブルネイへの旅はいかがでしょう。愛煙家の方は滞在中にタバコを止める事ができそうです。

マメ知識：

アルコールの持込みは 1 リットルの酒類 2 本までと 350ml のビール 12 缶まで

たばこの持込みは 20 本 5 ブルネイドル (1 本につき 0.25 ブルネイドル) のたばこ税が課税されます。(1 ブルネイドルは約 65 円)

お酒の国内販売が一切禁止されております。添乗員が事前に案内。

<まとめ>

海外添乗をすると様々な予期せぬ事が起こります。しかし添乗員がそこでどう対応するかが腕の見せ所でもあります。

これだけ聞くと海外旅行は怖いイメージを持たれるかもしれませんが、それぞれの国のガイドブックを読んだり、大使館に電話して事前に情報を得る事でほとんどのトラブルを未然に防ぐ事ができます。パスポートと常備薬そしてカップ麺を1つスーツケースに忍ばせて、素敵な海外旅行をお楽しみ下さい。